

## 政策評価の実施手順（案）＜制度改善後＞

## 1 評価実施施策の選定

各局等は、以下の基準により、重要な課題を有する政策分野などから施策を1施策以上選定してください。その際、成果指標・目標は何であるかを具体的に想定しながら選定してください。

## ※ 施策規模の目安

おおむね部相当で進めている施策を一単位としますが、施策の状況に応じて、個別的・具体的な検討が必要となります。

## ※ 選定基準

- より成果を志向してマネジメントする必要がある施策の中から、以下の基準で選定
- ・ 行政計画等における位置付け、行政計画等の改定時期、法令の制定改廃の動向、社会経済状況の変化など、施策を取り巻く状況を踏まえて時宜にかなった施策
  - ・ 上記のほか、各局が必要と認める施策

## 2 指標・目標の設定

- (1) 各局等は、施策を実施することでどのような状態にすることを旨とするのかを「施策目標」として記載するとともに、何について、どのように取り組んでいくのかが明らかになるよう、「施策目標の実現に向けた方針」を記載してください。
  - (2) 評価実施施策を選定した理由を十分に踏まえながら、施策の分野に関する「現状」及び「課題」を記載してください。
  - (3) 「施策目標」に対応する「指標・目標」を設定し、記載してください。あわせて、指標の選理由、目標の設定根拠等を記載してください。
    - 「施策目標」の実現に向けて達成すべき水準を定量的に測定できる「成果指標」として、アウトカム指標（行政活動の結果によって都民が受ける効果を表す指標）を設定してください。この「成果指標」だけではなく、必要に応じて、施策の成果の一部を測定できる「補足指標」として、アウトカム指標又はアウトプット指標（行政活動の実施量を表す指標）を設定してください。

なお、「成果指標」は、設定できない場合には、空欄となります。
    - 目標（目標値・年度）の水準を検討し、設定してください。都の現況、都民の求める水準、全国の状況、他自治体の状況などを基に検討し、目標を設定してください。
- ※ 評価時には、評価対象年度における実績を基に施策の進捗状況を把握することとなるため、実績測定が隔年であるなどの理由により評価対象年度の実績を把握できない指標がある場合は、実績測定可能な他の指標も併せて設定するなど、適切に施策を評価することができるようにしてください。（「補足指標」として記載してください。）
- ※ 定量的な指標の設定が困難な場合は、定性的な指標の設定も可としますが、施策目標の実現に向けて達成すべき水準が具体的に特定され、事後検証が可能なものを設定してく

ださい。（「補足指標」として記載してください。）

#### <指標の設定例>

- ①時系列的に遠い目標を掲げる「成果指標」を設定する場合は、現在の取組状況を測ることができる「補足指標」を併せて設定
- ②外部要因などの不確定要素が与える影響が大きい目標を掲げる「成果指標」を設定する場合は、行政の取組状況を測ることができる「補足指標」を併せて設定
- ③「施策目標」の実現に向けた優先度を明確化できるよう、施策における重点分野に特化した「補足指標」を設定
- ④施策ごとの特性や目的（普及啓発など）に応じて、都民意識を測るための指標（都民アンケートによる認知度、満足度等）を設定

#### [指標・目標の設定時の参考]

（総務省行政評価局「諸外国における政策評価のチェックシステムに関する調査研究—報告書—」を基に作成）

#### SMART 基準

- ①Specific（指標・目標は具体的か）
- ②Measurable（指標・目標は測定可能に設定されているか）
- ③Achievable（その指標・目標は無理がないか）
- ④Relevant（目的と手段の関係は適切か）
- ⑤Timed（実施時期や期限は明示されているか）

### 3 施策の構成事業の整理

施策を構成する事業を整理し、「指標・目標の達成に向けた主な取組」として記載してください。

- ※ 単に施策を構成する全事業を記載するのではなく、指標・目標の達成手段となる事業を体系立てて把握できるようにするため、同一の目的、対象、手法等で分類した事業のまとまりを「取組」として整理します。
- ※ 指標・目標と取組との対応関係を意識し、指標・目標の達成に向けて寄与度が高い主要な取組及び当該取組を構成する主要な事業を整理して記載してください。

### 4 施策の自己評価

各局等は、評価対象年度末における指標及び施策を構成する事業の実績等を踏まえ、施策を自己評価してください。

- (1) 指標に対する評価対象年度の実績と、その「達成状況」を記載してください。「達成状況」には、「達成」か「未達成」かを明示するとともに、定量的な指標である場合には目標値に対する達成度合い（%表示）を記載してください。当該年度の実績の確定値算出までに時間を要する場合は、施策の分析に活用可能となる代替数値を記載してください。
- (2) 上記（1）による目標と実績の乖離を基に、「施策目標の実現に向けた進捗状況」には、

順調であるかどうかなど、施策目標の実現に向けた見込みの認識と、その判断根拠を簡潔に記載してください。

＜自己評価のポイント（上記＜指標の設定例＞に対応）＞

- ①、② 成果指標（①時系列的に遠い、②外部要因などの不確定要素が大きい目標を掲げる成果指標）が「未達成」でも、補足指標（①現在の取組状況、②行政の取組状況を測ることができる指標）は「達成」の場合があります。その場合、施策全体として「順調」であると判断することもあり得ますが、当該補足指標と成果指標との連関を論理立てて説明しなければなりません。「達成」であれば「順調」と単純に判断することなく、「順調」だと判断する理由を、筋道立てて論理的に説明する必要があります。
- また、成果指標（①時系列的に遠い、②外部要因などの不確定要素が大きい目標を掲げる成果指標）が「未達成」で、補足指標（①現在の取組状況、②行政の取組状況を測ることができる指標）も「未達成」の場合、施策全体としても「順調ではない」と判断することになりますが、施策の分析、方向性の提示に当たっては、要因分析や課題の抽出を行い、今後どうすべきかを考える必要があります。
- ③ 全体的な指標（成果指標に相当）が「未達成」でも、重点分野に特化した指標（補足指標に相当）は「達成」の場合があります。その場合、施策全体として「順調」であると判断することもあり得ますが、その理由は明らかにする必要があります。
- また、全体的な指標（成果指標に相当）が「未達成」で、重点分野に特化した指標（補足指標に相当）も「未達成」の場合、施策全体としても「順調ではない」と判断することになりますが、施策の分析、方向性の提示に当たっては、要因分析や課題の抽出を行い、今後どうすべきかを考える必要があります。
- ④ 成果指標である都民意識を測るための指標（都民アンケートによる認知度、満足度等）が「未達成」の場合でも、必ずしも単純に「順調ではない」と判断する必要はなく、実績や指標間の重要度等も踏まえながら、補足指標を総合的に判断する必要があります。

(3) 「分析・課題の抽出」として、目標と実績の乖離について要因分析をした上で課題を抽出し、客観的に記載してください。

※ 分析の観点

- ・取組や事業は、指標・目標の達成に効果があったか
- ・取組や事業の実施方法の改善により、更に成果を高めることはできないか
- ・外部要因には何があり、どのような対処ができるか など

(4) 「今後の方向性」として、4（1）から（3）を踏まえた施策展開の改善点など、施策展開における今後の戦略を具体的に記載してください。

※ 特に、4（2）において、順調ではないとの認識である場合には、今後どのように改善につなげていくのかを具体的に明らかにしてください。